



心からの感動を届けます!

日野町は、豊かな自然や歴史・文化、農林業、商工業、生活文化などを通して体験型観光に積極的に取り組みます。

時代の移り変わりとともに私たちを取りまく環境は大きく変わり、農林業や歴史・文化などに対する自信や誇りも時代の波間に置き忘れてきたのではないのでしょうか。体験型観光の受入による人と人との交流によって、訪れる者、受け入れる者双方に心からの感動を呼び起こし、人として高まりあえる感動体験「三方よし! 近江日野 田舎体験」を町は推進していきます。

体験型観光って何?

国の光を観ること、それが「観光」です。

しかし、従来の観光では地域の本当の魅力を伝え切れていないのが現状です。

時代の流れとともに観光に対する人々の価値観も変わり、その地域でしか経験できないほんものの体験、人と人との交流を通じた感動や喜び、達成感を得られる旅の形が「体験型観光」として求められています。

近年、テレビやラジオ、新聞などで地域の話がたくさん紹介されていることから、従来の観光では得られない感

動を体験したいという人々の希望や田舎に対するあこがれが背景にあることがうかがえます。

その感動を伝える体験指導者は、日野町の魅力を充分に知っておられるみなさんご自身です。さあ、「三方よし! 近江日野 田舎体験」に取り組んでみませんか!



▲くるくるこねて、できた! (西岡家)



▲みんなで楽しくおはぎづくり (西岡家)

三方よし! 近江日野 田舎体験

日野町には、豊かな自然、歴史や文化、農林業や酪農などを生業とする農村の誇り、近江日野商人の精神を受け継ぐ商工業など、豊かな地域の財産、資源があります。そして、何よりも大切な財産は、それらを受け継ぎ、守り育ててこられた人そのものです。

これらの地域資源や人材を有効に活用した体験プログラムを整え、体験型修学旅行などを受け入れ、人や自然などとのふれあいを通じた「ほんもの体験」を「三方よし! 近江日野 田舎体験」として取り組んでいきます。

体験プログラムにおける「三方よし」とは、近江商人の「売り手よし 買い手よし 世間よし」の三方よしの理念を手本に、「迎えるもの(売り手)に自信と誇りの回復」、「来るもの(買い手)に心からの感動」、「地域(世間)に人的・経済的活性化」を意味します。

これらを実感できる体験プログラムのひとつに「農家民泊」があります。3月22、23日、日野町で初となる民泊体験イベント、「親子で農家民泊体験」を町内5軒の農家で行いました。



▲じゃがいもの植え付け (植田家)

このイベントは、日野町の魅力をもっと広く伝えたい、知ってもらおうと、日野町グリーン・ツーリズム推進協議会の有志が中心となって、企画したものです。予想していた以上に、交流による感動、喜び、発見がありました。



▶椎茸、平茸の菌打ち (東家)

キラリ人

ふるみち 古道 幸男さん・きみこ 紀美子さん
(杉)



▲「いろいろな人との交流が広がって楽しいです」

「親子で農家民泊体験！」の参加者を受け入れた古道さん宅。おふたりに交流の様子や受け入れた感想などをお聞きしました。

古道さんのお宅に泊まられたのは、京都からお越しの母親と子ども、子どもの友達の子3名。子どもたちは7歳の男の子で、家の周りや畑を走り回るなどして元気いっぱい。お互いに初めて会ったとは思



▲作業しながらおしゃべりも弾む

えないほど話が弾み、みんなが楽しく「じゃがいも植え」をされました。子どもたちは、にわたりの産みだての卵を手に取り「あつたかい！」と感激。その卵は、夕食でご飯にかけて「美味しい！」と喜んで食べました。ほかに、竹やぶに入り竹を取って竹馬を作って遊んだり、つくしを摘んで佃煮にして食べたり、田舎ならではの自然を満喫。



▶古道さんと一緒に畑を耕す子どもたち

い一夜を過ごされました。記念の寄せ書きには、「ステキな時間を有り難うございます。また、帰ってきま〜す！」とメッセージが。実際に、「じゃがいもの収穫や田植えにも来たい」と言っています。後日、古道さんにお礼のはがきが届きました。そこには、「今日も泊まりたいと泣いています」というお母さんの言葉と、子どもからは「おじちゃんとおふろで水かけをしたのがたのしかった」と書いてあり、「初めは不安もありましたが、思った以上に喜んでもらえて楽しかったです。思いがけない感動をもらいました。近所の方たちも温かく接していただき、とても良かったです」と紀美子さん。おふたりは、「ぜひ、またしたいです。民泊をしてくれる家が増えたらいいと思います」とおっしゃっています。



▶種もみの温湯消毒（渡邊家）

喜び、感動

農家民泊体験のアンケートを通して、喜びや感動の声、感想が寄せられていますので紹介します。

●みんなで食事を作って食べたことが楽しかったです。ご近所の方がいたけや野菜をくださって、道で声を掛けてくれたり、温かく迎えてもらい、うれしかったです。
(女性参加者)

●いつもお母さんにごはんを作ってもらっていたけど、自分がやったらたいへんだっただけで、いつもたいへんな仕事をしているんだなあと思いました。
(小学生男子参加者)

伝えたい感動

人間関係の希薄化が叫ばれ、子どもたちが被害者、あるいは加害者となるような重苦しく悲惨な事件が後を絶たない現在、心の豊かさ、温もりを取り戻すことができる感動体験、「ほんもの体験」が真に求められています。日野町にあるがままの地域資源を活かした「ほんもの体験」を通して、地域を学び、心からの感動を呼び起こし、人としての豊かさを実感できる新しい形の観光、「三方よし！近江日野」田舎体験」を推進し、感動の輪を拡げていきたいと思えます。日野町の体験型観光、グリーン・ツーリズムの推進にご理解とご協力をお願いします。



▲大阪から夫婦で参加（植田家）